

合格体験記

東工大の学士課程の学生になるためには「一般選抜」、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」、留学生向けの入試、編入学試験のいずれかを突破する必要があります。
今回はそのうち、現在の「一般選抜」と「総合型選抜」にあたる入試を突破した学生の合格体験記を掲載します。東工大の入試制度は「足切り制度の改変」「後期日程の撤廃」などを例として、ここ最近大きく変化しています。以下の体験記はあくまで参考資料として楽しくお読みください。出願に当たっては、東工大のホームページで最新の情報を確認するようにしましょう。



合格体験記①（前期試験）

理学院 現役

予備校 塾あり

センター得点 823/950

本試験得点 387/750

併願先・可否

芝浦工業大学 工学部 合格

東京理科大学 工学部 合格

早稲田大学 基幹理工学部 合格

早稲田大学 教育学部 合格

慶應義塾大学 理工学部 不合格

東京工業大学 情報理工学院（第一志望）
不合格

■受験のきっかけ

私が東工大を志望したのは2年の秋です。千葉県民であった私にとって自宅から通えるのはどこかを考えたとき、東大か、東工大か、千葉大という選択肢になりました。千葉大では目標としては少しぼやけてしまい、では東大に行けるかどうか考えたとき、自分には無理だと判断し、東工大を志望しました。

■対策

英語

東工大の英語は文章把握、英文和訳、和文英訳の三点が特徴です。これらの対策を一般的な対策とともに実施する必要があると思います。文章把握の学習として音読をお勧めします。また音読するとともに、自分の発した単語のイメージをすることで意

味が入りやすくなりました。英文和訳については『ポレポレ』を使い、和文英訳については『英語の構文150』を使って練習しました。

数学

私はもっぱらチャート式を使いました。特に確率、整数、空間ベクトルが苦手でしたので、これらの分野については一度例題を書き写し、その問題でキーとなることを一言でまとめ、その後練習問題を解くという形で進めました。そうすることでかなり苦手を克服したと思います。また一つ忠告をしておきたいと思います。問題の考えすぎはよくないということです。私はなんと一問につき20分も考えるようにしていたときがありました。それでは時間が本当にもったいないです。10分考えてできないと

きはその考え方を学ぶようにすると効率が
いいと思います。

物理

まず『セミナー』や『名問の森』などの
典型問題を繰り返し解きました。それで対
応できなくなったとき、現象を一つ一つ追
って自分の言葉で解釈しなおすようにしま
した。それを繰り返すうちに物理はできる
ようになりました。

化学

問題集を繰り返すことで、問題に即答で
きえるように対策しました。また東工大受験
生にとって『重要問題集』までにするか、
『化学の新演習』も手をつけるかというこ
ろが迷いどころだと思います。私は新演
習までやったのですが、新演習は計算が非
常に難しく設定されています。近年の東工
大は計算力を問わなくなっているので、立
式するところでやめ、電卓を使うような対
策をおすすめします。そうしないと時間が
もったいないです。

総合

私の行った勉強の方法論としておすすめ
できるものがあります。一つ目は毎日 1 時
間単位で勉強の予定を立てることです。受

験生になると、一日中勉強という日が多く
なります。そうなりととりあえず勉強すべ
きだけど、何をすべきかわからないという
状態に陥りがちです。それを防ぐために予
定をしっかりと立てることがよいのです。二
つ目は自分のミスしやすいことや忘れやす
いことを一つのノートにまとめておくこと
です。そうすることでミスの振り返り回数
が格段と上がり、ミスが減ります。また受
験当日にそれを見返すことで少し心を落ち
着かせることができます。

■当日

当日について何点か私の反省を書きます。
まず時計を忘れないことです。筆記用具や
受験票は何とかなることが多いです。しか
し時計は何とかなりません。コンビニにも
売ってないですし、試験官に聞ける空気で
はないです。二つ目は、自分の知らないこ
とはないはずと信じることです。絶対にお
かしい答えが出てきたとき、問題文を読み
間違えていると考えるべきです。実際、僕
は東工大の物理の大問 1 で密度の存在を無
視してほぼすべて落としました。

■コメント

たぶんこれを読む多くの人が高 2 や高 1
でしょう。まだ受験とか言われてもあんま

イメージがわからないのが現状であると思います。学習面において注意することはわからないことがないようにすることが大切だと思います。それをきちんとできていればおおよそ受験は問題ないでしょう。また勉強以外の何かに力を入れることが大切だと思います。大学に入ってみると、何か特技や好きなものを持っている人はとても輝いて見えます。素敵な大学生を目指して頑張ってください。応援しています。



合格体験記②（前期試験）

工学院 現役

予備校 なし

センター得点 730/950

本試験得点 443/750

併願先・可否

早稲田大学 基幹理工学部 不合格

慶應義塾大学 理工学部 合格

東京理科大学 理工学部 合格

芝浦工業大学 工学部 合格

明治大学 理工学部 合格

■受験のきっかけ

私が東工大を志望した理由は二つあります。一つ目は、東工大は日本の理系で最高峰の国立大学だからです。自分は中学生のころから理系に進むことを決めていて、そのころ大学について少し調べたときに偶々この大学を知りました。はじめは、工業大学にはあまり良いイメージがありませんでしたが、私の想像とは裏腹に、とても優秀

な大学であることを知りました。そのギャップもあったからか、この大学に深く興味を持つようになりました。

二つ目は、私がこの大学を受ける決心を私にさせたもの、それは本試験の配点です。この大学の詳細を調べていく中、「そういえばこの大学、なんの教科で入れるのだろうか?」と思い調べてみると、国立なのにセンター試験関係ない！（600点未満の足

切りのみ)、英語の配点が低い!と文系科目があまり得意でなかった私にぴったりでした。受験では苦手科目をなくすことも必要ですが、避けることができるならできる限り避けたい。特に理数系が得意!でも英語などの文系科目が苦手だという方に強くお勧めしたいです。(ちなみに私は英語34/150でした!)

■対策

東工大対策に最も重要なのは、やはり配点が高い理数科目。特に私は化学に関する対策を話したいと思います。東工大化学は他大学の化学に比べると少し特殊なところがあります。代表例を挙げるならば、答えを1つ、または2つ書きなさいという問題。非常にいやらしい問題で適当に選んで当たるものではないため、受験者の正確な知識や計算力が問われます。最もよい参考書は、やはり過去問だと思います。なるべく早いうちに過去問に取り掛かり、問題の出題傾向を把握していくことが大切です。そこまでのつなぎとしておすすめの参考書は『重要問題集』と『化学の新演習』です。とくに重要問題集は必ず1周はすべきものだと思います。また、知識を得るためには『化学一問一答』が良いと思います。とくに無機化学のところは語呂も一緒に載っていて

非常に覚えやすく、これで覚えれば大体の知識問題は対策できます!

■当日

まず、前日は寝られません(笑)。よく、「前日は徹夜で勉強せずに早く寝よう」と書いてあるサイトがありますが、緊張して寝られるわけありません。しかし、体は休めるべきです。前日は受験勉強の最後の日と考えるのではなく、明日の受験の準備と考えるべきでしょう。そのため、なるべく頭をフル回転させるようなことは避け、あやふやな知識を再確認する時間に充てるべきでしょう。最後の一日の勉強で受験が左右されることはあまりありません。ただし試験時の体調によって、受験が左右されることは大いにあります。前日は無理をせず、一日を使って体を休めましょう。また、当日はほぼ100%の確率で電車が遅れます。そのため、時間に余裕を持って家を出しましょう。私は受験日当日に最寄り駅でサラリーマンが目の前で線路に降りて電車が10分ほど止まるのを目の当たりにしました……。

東工大は多くの大学と異なり2日かけての受験となります。一日目が終わったあとは当日やった科目は気にせず、2日目の科目のことだけを考えましょう。気にしすぎるとまた寝られなくなります(経験談)。1日

目ダメであっても2日目に挽回することは大いに可能、むしろ挽回する方が多いくらいなので、諦めずに2日間を乗り切りましょう！！

■コメント

大学受験、それは人生で乗り越える山の中で最も高いもののひとつであります。それはとても険しいものとなるでしょう。しかし、皆さんにはそれを乗り切れるほどの力を胸に秘めています。皆さんはこれから多くの大学を知り、そこで自分の本当にやりたいことを見つけて、そのために多くのことを学んでいくと思われます。その過程で、つらいとき、悲しいとき、いやになるときこともあるでしょう。その時は自分ともう一回向き合ってみてください。つらい

思いをしてまでそれを成し遂げたいかどうか。そこでYESと答えられるならば、あなたは本当の意味で頑張れるはずです。頑張って登った山の頂の景色、それはそれはとても綺麗なものですよ。私たち東工大生は陰ながら皆さんのことを応援しています。

頑張ってください！！



合格体験記③ (AO 入試)

工学院

■受験のきっかけ

東工大を志望した理由は、文部科学省指定国立大学のうち東工大が、工学に興味がある自分にとって最も適していると考えたからである。しかし、自分は数学がかなり

苦手であったため、一般入試を見据えつつもAO入試で合格しようと考えた。

■対策

東工大のAO入試は、筆記試験の過去問こそホームページに掲載されているものの、解答はなく、しかも問題傾向は年度により

かなり異なる。また、面接に関する情報も非常に少なく、対策を行うことはほぼ不可能であった。私が AO 入試のためにおこなったことは出願時に提出する志願理由書を高校の先生に何度も添削していただき文章を洗練すること、筆記試験の過去問を解いて添削していただくことのみである。

一般入試の対策は、基礎的な問題集として物理と化学それぞれの重要問題集を解いたのち、東工大の予想問題集や過去問題集を解いた。東工大対策として、まず予想問題集を使ったのだが、問題の出来が良いとは言えず、過去問のみを重点的にやればよかったと思う。といっても理系科目の基礎固めに時間がかかったのであまりできておらず、各種模試判定も大抵 D 判定であり一般入試で合格できたかはかなり怪しかったと思う。

■当日

AO 入試当日は雪が降っており、交通機関への影響が危惧されたが、特に大きな問題が起こることはなかった。（ウッドデッキで一度「滑り」かけたということはあったのだが…）私の AO 入試は午前には筆記試験を受けてから、午後に面接試験を受けるという流れであった。筆記試験は一見非常に難しそうだが、実はかなり基本的な問題で

あった。落ち着いて、かつ明快に説明を記述することが求められているように感じた。その後の面接試験では、まず自己アピールを 3 分で行い、次にその場で示された物理の問題を 7 分で考え、5 分で模造紙を使って面接官に説明し、それに関する質問に答えるというものであった。

私の面接の順序（おそらく出願書類の提出順）は非常に速かったが、なんとか自己アピールを予め考えて淡々と話すことができた。自己アピールに対する質問はなかったが、自己アピールを行なっている間、面接官がやけに頷きながらこちらを見ているのが気になった。あの頷きは何だったのかは永遠に分からないだろう。その後の問題解説では、面接官 3 人に見られながらというかなり緊張する状態であったため、問題それ自体は簡単であるものの普段使ってきた公式が思い浮かばず、うまく説明することはできなかった。しかしながら、あやふやに答えず、どんなに自信がなかろうともはっきりと「～なので、～と考えられます。」と因果関係を明確にし、言い切ることを忘れなかった。

■コメント

総じて東工大の AO 入試は対策のしようがなく、それに賭けるべきではないが、

東工大の少々特異な一般入試に合わない人は検討してみると良いと思う。また、AO入試で合格すれば私立の抑えの入学金を払わずに済んだり、新生活の準備が余裕をもって行えたりするなど様々なメリットがあるのでかなり「お得」でもあるから、入試の機会を増やすと思って挑戦してみてはいかがだろうか。



合格体験記④（前期試験）

情報理工学院 現役

予備校 なし

センター得点 727/950

本試験得点 446/750

併願先・合否

早稲田大学 教育学部	合格
------------	----

東京理科大学 理工学部	合格
-------------	----

慶應義塾大学 理工学部	不合格
-------------	-----

明治大学 理工学部	不合格
-----------	-----

東京理科大学 工学部	不合格
------------	-----

■受験のきっかけ

二次英語の割合が低く、センター試験対策に時間を割かなくて良いから。

数学

超難関国立や数学オリンピックの過去問を解く。

■対策

受験命！みたいな人ではなかったので結構適当です。旧帝の過去問を解きまくれば多分受かる。（責任は取りませんがあながち間違っていないはず。）

英語

全くできなかった科目なので何とかして点数を取ろうとしたとき、とある記事を見つけた。その記事には英語が全くできなかった人の英語の対策が書いてあり、出やすい選択肢を調べてその選択肢を本番で書く、というものであった。その人はその対策で

本番の英語の点数を確保していたので、私も真似してこの対策を採用した。

できない人は記述で点数を稼ぐのは不可能なので、選択肢の当たる確率をあげる為に傾向を掴む努力くらいはしたほうがいいと思う。

物理

過去問と『難問題の系統とその解き方』を解く。

化学

過去問を解く。

■当日

2019年の数学は難易度的にそこまで難化していなかった(『大学への数学』(大数)の評価は並、駿台の評価は難)のだが、傾向が変わったのと大数というD問題に該当する問題が出たことにより、試験会場で感じる難易度は極めて高かった。噂では数学の受験者平均が70点、D問題の平均点は1点程度らしい。

そのような年に運悪く当たってしまった私は試験会場でこれらの問題を一通り見てすぐに解法が思い付く問題がひとつしかなく、大変に焦った。駿台の東工大実戦模試の数学210/300、過去問演習では4完は当たり

前であったため、正直東工大数学には強い自信があった。このような人でも焦るのであるから受験生は気を抜かず全力で挑んで欲しい。

本番では一回焦るとなかなか冷静になれないもので、試験が始まって1時間くらいはひとつの問題に集中できず解答用紙がほぼ白紙であった。このロスタイムが私の目標であった240点超えを達成できなかった最大の理由である。

最終的に205点取れたので目標を達成することはできなかったが相対的に点数が高かったのである程度納得できる結果となった。英語は長文が本当に長く、内容をあまり理解できなかったのでありえない選択肢を消した後、事前に調べた出やすい選択肢のデータを用いて回答した。

物理は典型問題を応用したような問題が大半を占めていたため、解けると思ったのだが、大問3の後半で躓き、また前日にあった数学の出来の悪さから焦りが生じ計算ミスをしてしまった結果、104/150しか取れなかったという大失態を犯した。

化学は一般的に簡単であつたらしいが私にとっては知識問題が多く、暗記が大の苦手な私には難しすぎた。考えても京大化学みたいに答えが出てこないのである。よって

時間は余ったが 90/150 しか取れず、東工大受験生としては低すぎる点数を出した。

ちなみに私大の入試のときのトイレは何十分と並ぶくらい混雑するが、東工大の入試のときはほぼ並ばずに用を足せるくらいに空いていた。東工大のトイレ事情は明るい。

■コメント

受験は運、才能、環境、努力ゲーだと思っています。運や才能は自分の力では変えられないので環境を変えたり(例えば頭いい集団に入る)、努力を重ねたりして自分の中の最高の状態で受験本番を迎えてください。あとは運頼みです。落ちたら運がなか

っただけとでも思って前を向きましょう。

倍率を見れば 4 人中 3 人は落ちているわけですから仕方ないと思えるレベルです。

あの倍率 9.8 倍の東工大情報理工学院に受かった私ですが明治理工に落ちるのでやはり運ゲーなのは間違いありません(たまたま数学の大問 1 つを凡ミスで落とすただけです……)

私としては東工大にきて欲しいですが、東大京大や医学部などよりも視野に入れて良い大学生活を送れるよう頑張ってください！

合格体験記⑤(AO 入試) 環境・社会理工学院 B 現役

予備校 あり

センター得点 808/950

本試験得点 86/100

併願先・可否

大阪大学 工学部	未受験
----------	-----

横浜国立大学 理工学部	未受験
-------------	-----

早稲田大学 創造理工学部	未受験
--------------	-----

東京理科大学 工学部	不合格
------------	-----

■受験のきっかけ

国公立大学の受験機会が増えるというのが第一の理由です。東工大前期入試は数学の配点が高く、理数系が苦手な私は太刀打

ちできないと諦めていました。しかし、先輩が同じ AO 入試で合格したことがわかり、気になって調べてみると自分も挑戦できそうな試験内容だと思ったため受験を決めました。

■対策

受験がまだ遠くないうちは「大学の研究内容を知る」ことと「これから学ぶことの入門的知識を知る」ことに重点を当てました。まず重要なのは、オープンキャンパスに参加すること、研究室のウェブサイトを勉強の息抜きに見ることです。大学では何を勉強でき、どの専門性を持つ先生がいるのかを知ることが、本番の面接でも役立ちました。また、日常的に新聞を読んだり朝のニュースを聞いたりするようにして現代社会や最近起きた災害についての知識を得るようにしました。

第一段階の選抜が通ってからは勉強の合間に本を読むようにしました。面接で話せるような知識が足りないと感じたので岩波ジュニア新書や高校の図書館にある土木関連の書籍を借りて読みました。実践的な対策は、予備校で2回ほど模擬面接（といっても入室から志望理由を言って退出するだけ）でしたが、この練習を通して志望理由をすらすら言えるようになり、本番の大きな安心材料になりました。また、面接で自分の話し癖を知り、話をコンパクトにまとめる練習などもできて大変有意義でした。

過去の東工大AO入試のデータ（どういう試験内容だったか）は予備校で積極的に

集めているので、ダメ元で過去の受験体験記が残っていないか相談することをおすすめします（特に大手予備校に通っている方）。

■当日

環社Bの試験は午前と午後があり、午前には西2・3号館内の教室での筆記試験でした。筆記試験の過去問は大学が出している通りです。90分で2問、数学物理でざりざりと解くものではなく、国公立後期の小論文試験の簡易版のような感じでした。時間は過不足なくあるので資料をしっかりと読み、書くことを余白にまとめ、焦らず書くようにしました。

午後は面接でした。面接は受験番号順に呼ばれました。面接は受験者一人に先生が5人だったか7人だったかが囲むというとてもない圧迫面接でした。しかも部屋が狭いので圧迫感がさらに増しました。まずは志望理由を手短かに言うように言われました。ここで模擬面接の経験が活かしました。そのあと、左に座っていた先生から突然英語で質問されました。リスニングには自信があったので、意味は咄嗟に理解しましたが、英語で応答できないことに気づきました。しかし沈黙は良くないと思いとりあえず英語でたどたどしく応答し、最終的には日本語で話しました。この時、内心で「終わっ

たな…」という気持ちが頭をよぎりましたが、「こんな状況で英語をすらすら言える受験生はいる訳がない！ここから立て直せば最後の一人に滑りこめる。」と開き直りました。想定外の質問の後は想定通りの質問が並び、志望理由書に書かれた内容に関わることや自分の住む町に対する考え、防災に対する考え、学校での活動内容を答えました。ここでは志望理由書を考える際に関連知識を調べたこと、事前に研究室のウェブサイトからどういう専門の先生がいるか確認したことが良かったと思います。目の前にいる先生方に対して「この先生、ウェブサイトで見た方だ！」とわかると若干安心できました。

■コメント

AO入試は一般入試と違い事前にできる対策は限られています。そのため志望理由の口述など、安心材料を増やして心の余裕を作ることしか対策はないです。できる限り準備してそれでも失敗してしまったり、試験途中で取り返しがつかないことに気づいたりしたときはすぐに気持ちを切り替えることを推奨します。

面接は対話なので、言いたい要素を詰め込みすぎる必要は全くないです。むしろ自分が言いたいことをただ伝えるのではなく、相手が知りたいこと（質問）に対して的確に独自性をもって答え、興味を持ってもらえるように誘導するのが大事だと思います。面接全体においては自分の伝えたいことを全て言って悔いなく帰りましょう！

合格体験記⑥（前期試験）

理学院 現役

予備校 なし

共通テスト得点 760/900

本試験得点 484/750

併願先・合否

なし

■受験のきっかけ

高二の後半までは進路についてちゃんと考えたことが無く、あんまり地元から遠くに行きたくないから東北大がいいかな～などとヘラヘラしていた記憶があります。

高三の春休みに差し掛かる時期にお世話になっていた先生になんとか東北大を志望している旨を伝えたところ「東北大の理系キャンパスは山の中だから傾斜キツイよ？」と謎の情報を頂き、実際にキャンパ

スに行ってみたところ本当に軽い山登り状態でした。こんな過酷なキャンパスでは生きていけない！と悟ってから急いで東北・関東圏の大学の過去問を漁り、相性の良さそうな大学を選んだところ東工大に流れ着いた次第です。

■対策

勉強時間の比率はだいたい数：理：英＝4:5:1 くらいでした。英国社の学校の授業が早い時期から共通テスト対策になっていたので、自分で勉強するのはほとんど数・理の二次試験対策のみでした。（秋頃の模試で地理の点数が 24/100 だった時は流石に焦りましたが…。）

僕は数学が不得意な受験生だったので、数学以外の科目で安定して点を取ることを目標に数学 150 点その他三科目 100 点ずつを目安としていました。本試の結果は数/物/化/英=135/102/134/113 だったので概ね作戦通りの点数を取ることができました。この目標点ならば数学で半分取れば OK なので数学が苦手な方は参考にして頂ければ幸いです。

参考書等については各人の好みによりますし、ネットには夥しい数の東工大対策の記事がありますのでそちらを参照してください。一つだけアドバイスをすれば、

問題の癖が強い化学の対策は早期に始めた方が良いと思います。

■当日

初日の数学の大問 1 の問題の解答が円のような形になったのですが、試験終了後に僕の前方の 3 人の解答が正方形なのを見て「あ、落ちたな」と思ったのをよく覚えています。本来初日が終われば翌日の理科に向けて勉強すべきなのですが、既に諦観していた僕は来年に向けて数学を対策しようと同じ日に数学があった一橋と東大の問題を解いていました。残念ながらそれらもあまり解けずなおさら凹みました。かなりアホですね。

2 日目が終わってトイレに入った時に前の 2 人が化学の構造決定が環状エステルになった話をしていた時は「俺も俺も！」と混ざりたかったです。

メンタルの上下が激しい方は、試験終了後も周囲の解答を見ず、キャンパス内では常にイヤホンを装着することをお勧めします(笑)

■コメント

当日まで大岡山キャンパスも田町キャンパスも訪れず、各学院の受け入れ人数すらロクに把握していなかった僕と比べれば、工大祭に足を運んでこの冊子を手に入れた

熱心な皆さんはほぼ受かったも同然だと思います。体を壊さない程度に頑張って合格を掴み取ってください。（べっ、べつに受

かったら LANDFALL に入って欲しいなんかに思っていないんだからねっ！）

合格体験記⑦（前期試験）

物質理工学院 現役

予備校 なし

共通テスト得点 744/900

本試験得点 458/750

併願先・可否

東京理科大学

合格

中部大学

合格

■受験のきっかけ

社会をあまり使わない入試方式に惹かれたから。また、人と話したり、人前でスピーチをしたりすることがとても苦手で、就職活動がうまくできるか不安を抱いていたので、少しでも就職が有利になりそうなこの学校を目指しました。また、東工大生になれば、自分の内気な性格も許されるかと思い、東工大生になりたいと思っていました。

■思い出と対策

自分は中学受験組ですが、中学受験でなるべくして大失敗し、唯一合格を勝ち取った、名前を書けば受かるという噂がなくもないような学校に六年間通うことになってしまいました。大学受験では、絶対に第一志望の所に行きたいと思っていたので、中学のころから大学受験のことを考えていました。これから述べるのが正しいのかど

うかはわかりませんが、参考になれば幸いです。

自分が中学受験で大失敗してしまった理由は、努力不足、怠慢だと思います。宿題を出されても答えを写したり、模試の結果を正しく受け止めていなかったりしていました。それを踏まえて、大学受験に臨むにあたって、とにかく量をこなすことを念頭に置いていました。母校には、自習ノートを毎日提出するという文化があったので、その自習ノートの冊数をできるだけ増やすことを目標にしていました。一度後れを取ってしまった身なので、量が必要であると思いました。量が質か、というような議論がされることもありますが、量をこなすことで初めて質の高い勉強ができるようになると思います。

参考書は、何か目新しいものを買うことはせず、学校でもらった教科書と問題集を

ひたすらやっていました。特に、公式にはその分野の心臓部分が詰まっていると思ったので、教科書に載っている公式の導出方法を重点的にやっていました。

また、東工大志望であったとしても共通テストは大事なので、文系科目もある程度対策をしておいた方がいいと思います。共通テスト利用の入試が受かると、モチベーションも上がるし、安心感にもつながってとても良かったです。

受験期はかなり追い詰められて、学校に行けなくなったりしました。毎日、教室の窓をみて、飛び降りようと思っていました。友達や家族とも話せなくなったり、食事をとれなくなったりしました。そんな状態になっても、その時にやれることをできるだけやっていれば、何とか卒業できたし、受験までに一通りの勉強をすることができました。辛いときは何もせずに休んで、少し回復したら辛さの根源がなんだったのか考えて、一つずつ解消していけば大丈夫です。

チャイルドラインに電話するのもおすすめです。

■コメント

大学に入ってから、いろんなプレッシャーや、慣れない環境に打ちのめされることもあります。周りの東工大生はすごい人ばかりなので、自分ももっと頑張ろうという気持ちになれています。受験期は辛かったです。受験を通して、自分との付き合い方が少しだけわかるようになった気がします。模試や合否など結果ばかりにこだわっていた時期も長かったです。目標に向かって努力するという経験をするのが一番大事だったのではないかと今は思っています。休み休みでいいので、頑張れるときは頑張ってください。応援しています。

